1. 平成28年第4回郡上市議会定例会議事日程（第6日）

平成28年9月30日 開議

- 日程1 会議録署名議員の指名
- 日程2 議案第105号 郡上市資源ごみ回収施設「エコプラザ」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程3 議案第106号 郡上市都市公園条例の一部を改正する条例について
- 日程4 議案第107号 郡上市白鳥道の駅施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程5 議案第108号 郡上市高鷲農畜産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程6 議案第109号 郡上市福祉医療費助成に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程7 議案第110号 平成27年度郡上市一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程8 議案第111号 平成27年度郡上市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程9 議案第112号 平成27年度郡上市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程10 議案第113号 平成27年度郡上市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程11 議案第114号 平成27年度郡上市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程12 議案第115号 平成27年度郡上市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程13 議案第116号 平成27年度郡上市ケーブルテレビ事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程14 議案第117号 平成27年度郡上市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程15 議案第118号 平成27年度郡上市宅地開発特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程16 議案第119号 平成27年度郡上市青少年育英奨学資金貸付特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程17 議案第120号 平成27年度郡上市鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程18 議案第121号 平成27年度郡上市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程19 議案第122号 平成27年度郡上市小水力発電事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程20 議案第123号 平成27年度郡上市大和財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程21 議案第124号 平成27年度郡上市白鳥財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程22 議案第125号 平成27年度郡上市牛道財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程23 議案第126号 平成27年度郡上市石徹白財産区特別会計歳入歳出決算認定について

- 日程24 議案第127号 平成27年度郡上市高鷲財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程25 議案第128号 平成27年度郡上市下川財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程26 議案第129号 平成27年度郡上市明宝財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程27 議案第130号 平成27年度郡上市和良財産区特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程28 議案第131号 平成27年度郡上市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について
- 日程29 議案第132号 平成27年度郡上市病院事業会計決算認定について
- 日程30 議案第143号 財産の無償譲渡について（郡上市高鷲農畜産物処理加工施設とうふ工房）
- 日程31 議案第144号 市道路線の廃止について
- 日程32 議案第145号 市道路線の認定について
- 日程33 請願第 7号 所得税法第56条廃止の意見書提出を求める請願書
- 日程34 請願第 8号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止
を求める意見書採択に関する請願書
- 日程35 議 発 第 12号 議員派遣について
- 日程36 報 告 第 13号 専決処分の報告について
- 日程37 議報告第7号 中間報告について

2. 本日の会議に付した事件

日程1から日程37まで

- 日程38 議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算（第4号）について
- 日程39 議案第147号 工事請負契約の締結について（（仮称）郡上市歴史資料・文化財収蔵施設新築（建築）工事）
- 日程40 議 発 第 13号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止と
子ども医療費の助成制度の創設を求める意見書

3. 出席議員は次のとおりである。（18名）

1番	三島一貴	2番	森藤文男
3番	原喜与美	4番	野田勝彦
5番	山川直保	6番	田中康久
7番	森喜人	8番	田代はつ江
9番	兼山悌孝	10番	山田忠平
11番	古川文雄	12番	清水正照
13番	上田謙市	14番	武藤忠樹

15番	尾村忠雄	16番	渡辺友三
17番	清水敏夫	18番	美谷添生

4. 欠席議員は次のとおりである。(なし)

5. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市長	日置敏明	副市長	青木修
理事兼総務部長	田中義久	市長公室長	三島哲也
健康福祉部長	羽田野博徳	農林水産部長	下平典良
商工観光部長	福手均	建設部長	古川甲子夫
環境水道部長	平澤克典	教育次長	細川竜弥
会計管理者	乾松幸	消防長	川島和美
郡上市市民病院 事務局長	尾藤康春	国保白鳥病院 事務局長	藤代求
郡上市 代表監査委員	大坪博之		

6. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長	長岡文男	議会事務局 議会総務課 課長補佐	加藤光俊
議会事務局 議会総務課主査	武藤淳		

◎開議の宣告

○議長（渡辺友三君） おはようございます。

議員の皆様方には、9月8日の開会以来、それぞれの執務、大変御苦労さまでございます。いよいよ本日、最終日を迎えております。よろしく御審議のほどお願いいたします。ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付してありますので、よろしくお願いいたします。

（午前 9時30分）

◎会議録署名議員の指名

○議長（渡辺友三君） 日程1、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第88条の規定により、会議録署名議員には、12番 清水正照君、13番 上田謙市君を指名いたします。

◎議案第105号から議案第109号までについて（委員長報告・討論・採決）

○議長（渡辺友三君） 日程2、議案第105号 郡上市資源ごみ回収施設「エコプラザ」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてから、日程6、議案第109号 郡上市福祉医療助成に関する条例の一部を改正する条例についてまでの5議案を一括議題といたします。

ただいま一括議題といたしました5議案は、所管の常任委員会に審査を付託してあります。各委員長より審査の経過と結果についての報告を求めます。

初めに、産業建設常任委員長、5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） おはようございます。それでは、産業建設常任委員会の報告をいたします。

平成28年9月8日開会の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会の審査を付託されました条例4議案につきまして、平成28年9月23日開催の第4回産業建設常任委員会において、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告をいたします。

なお、経過については主な内容を報告いたします。

条例議案。

議案第105号 郡上市資源ごみ回収施設「エコプラザ」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について。

環境水道部長から高鷲エコプラザの位置を変更するもので、移転により、今まで冬季に閉鎖されていたエコプラザを、年間を通じて利用することができるようになるなど、利便性が高まり、リサイクル率の向上につながるとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、移転候補地は小学校の横にあり、付近には給食センターもあるため、影

響はないかとの質問があり、エコプラザで回収するものは、空き瓶、ペットボトル、古着などのため、衛生面では特に問題ないとの説明がありました。

移転候補地近くには公園もあり、車の出入りで安全面も危惧されるとの質問があり、移転候補地の施設の一部は、現在も車庫として利用しており、常に車の出入りがあるため、移転に伴う支障はないものと思われるが、もう一度安全面を確認し、必要に応じて看板や柵などの設置を検討して万全を期したいとの説明がありました。

エコプラザの管理についての質問があり、他の地域と同様にシルバー人材センターに委託している。原則2名体制で行っているが、各地域の状況に応じて運営しているとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては、全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第106号 郡上市都市公園条例の一部を改正する条例について。

建設部長から電柱、電話柱などが、都市公園を占用する場合の占用料を、郡上市道路占用料徴収条例に規定する額に改めるものであるとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、条例に規定するその他の占用について質問があり、標識、発電施設、耐震性の貯水槽、災害応急対策に必要な施設、工事用の板囲い・足場・詰所などの仮設物件などがあるとの説明がありました。

電柱以外の対象物件について質問があり、八幡地域の都市公園12施設のうち、9施設に45本の電柱と1本の支線があるのみで、他の種類はないとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第107号 郡上市白鳥道の駅施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について。

商工観光部長から、（仮称）長良川あゆパーク整備（県営事業）に伴い、白山長滝公園のテニスコート及びパターゴルフの項目を削除するものであるとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、現在施設を利用している人に対する対応について質問があり、道の駅の職員から定期的に利用している人に対して連絡をしており、単発的に利用された人に対しても、その都度報告している。利用者が今後、どこを利用するのかということについては、確認の上、調整を図りたいとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第108号 郡上市高鷲農畜産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について。

農林水産部長から、高鷲農畜産物処理加工施設とうふ工房を民間事業所に譲渡するため、とうふ工房に関連する名称及び使用料部分の規定を本条例から削除するものであるとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、とうふ工場の従業員について質問があり、現在専属で一人が勤務しているが、今後はとうふ製造を中止し、ヨーグルト製造中心の業務となる。対象となる従業員は、ヨーグルト製造技術を持っているため、環境が変わっても勤務できる体制であるとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

以上、委員会の経過と結果について報告をいたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会産業建設常任委員会委員長 山川直保。

以上でございます。

○議長（渡辺友三君） 続いて、文教民生常任委員長、6番 田中康久君。

○6番（田中康久君） おはようございます。それでは、文教民生常任委員会の報告をさせていただきます。

平成28年9月8日開会の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会の審査を付託されました条例1議案につきまして、平成28年9月21日開催の第4回文教民生常任委員会において、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告をいたします。

なお、経過については主な内容を報告いたします。

議案109号 郡上市福祉医療助成に関する条例の一部を改正する条例について。

健康福祉部長から、児童扶養手当施行令の一部改正に伴い、所要の規定を整備するとの説明を受けました。審査の中で、委員から条例に基づく福祉医療助成世帯に対する公費負担の額について質問があり、平成27年度決算において、母子家庭が1,899万5,722円、父子家庭は372万2,947円であり、対象経費の2分の1を県補助金で、受け入れてる。今回の改正は児童扶養手当の多子加算の額が本年8月から増額改定されたことに伴い、係る規定が新設されたことによる項ずれを改めるもので、支給制限の基準に変更はないとの説明がありました。

母子・父子家庭等の支給制限額及び所得制限を超える世帯の割合について質問があり、母または父本人に、扶養親族等及び児童がないときの政令で定める額は192万円、養育者等にあっては236万円、申請件数に対する所得制限超えの割合は、母子世帯が17.6%、父子世帯は40.5%であるとの説明がありました。

離婚等でひとり親となった世帯の養育費等の収入状況は把握しているのかとの質問があり、児童扶養手当受給者には、毎年現況届の提出を求めていること、養育費は申立書で確認し、その8割を収入認定してるとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては、全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会文教民生常任委員会委員長 田中康久。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わりましたので、委員長報告に対する質疑を行います。質疑はあり

ませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 質疑なしと認め、議案ごとに討論、採決を行います。

議案第105号 郡上市資源ごみ回収施設「エコプラザ」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第105号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第105号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第106号 郡上市都市公園条例の一部を改正する条例についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決をいたします。

議案第106号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第106号は原案のとおり可とすることに決定いたします。

議案第107号 郡上市白鳥道の駅施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第107号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり可とすることに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第107号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第108号 郡上市高鷲農畜産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第108号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第108号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第109号 郡上市福祉医療助成に関する条例の一部を改正する条例についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第109号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり可とすることに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第109号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

◎議案第110号から議案第132号までについて(委員長報告・討論・採決)

○議長(渡辺友三君) 日程7、議案第110号 平成27年度郡上市一般会計歳入歳出決算認定についてから、日程29、議案第132号 平成27年度郡上市病院事業会計決算認定についてまでの23議案を一括議題といたします。

ただいま、一括議題といたしました23議案は、決算認定特別委員会に審査を付託してあります。委員長より審査の結果について報告を求めます。

決算認定特別委員長、8番 田代はつ江君。

○8番(田代はつ江君) それでは、決算委員会の特別認定の報告をさせていただきます。平成28年9月8日開会の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会の審査を付託されました平成27年度決算認定関係23議案につきまして、平成28年9月12日開催の第1回決算認定特別委員会、13日開催の第2回決算認定特別委員会及び14日開催の第3回決算認定特別委員会において、慎重に審査いたしましたので報告をいたします。なお、全議員参加の委員会ですので、詳細な報告は省略し、結果のみ報告いたします。

議案第110号 平成27年度郡上市一般会計歳入歳出決算認定について、議案第111号 平成27年度郡上市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、議案第112号 平成27年度郡上市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について、議案第113号 平成27年度郡上市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について、議案第114号 平成27年度郡上市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、議案第115号 平成27年度郡上市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について、議案第116号 平成27年度郡上市ケーブルテレビ事業特別会計歳入歳出決算認定について、議案第117号 平成27年度郡上市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について、議案第118号 平成27年度郡上市宅地開発特別会計歳入歳出決算認定について、議案第119号 平成27年度郡上市青少年育英奨学資金貸付特別会計歳入歳出決算認定について、議案第120号 平成27年度郡上市鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定について、議案第121号 平成27年度郡上市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、議案第122号 平成27年度郡上市小水力発電事業特別会計歳

入歳出決算認定について、議案第123号 平成27年度郡上市大和財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第124号 平成27年度郡上市白鳥財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第125号 平成27年度郡上市牛道財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第126号 平成27年度郡上市石徹白財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第127号 平成27年度郡上市高鷲財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第128号 平成27年度郡上市下川財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第129号 平成27年度郡上市明宝財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第130号 平成27年度郡上市和良財産区特別会計歳入歳出決算認定について、議案第131号 平成27年度郡上市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について、議案第132号 平成27年度郡上市病院事業会計決算認定について、以上23議案につきましては、審査の結果、本委員会としては、全会一致で認定することに決定いたしました。

以上のおり報告いたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会決算認定特別委員会委員長 田代はつ江。

以上です。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わりましたので、委員長報告に対する質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認め、議案ごとに討論、採決を行います。

議案第110号 平成27年度郡上市一般会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第110号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議案第110号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第111号 平成27年度郡上市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第111号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議案第111号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第112号 平成27年度郡上市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第112号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第112号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第113号 平成27年度郡上市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第113号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第113号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第114号 平成27年度郡上市介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第114号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第114号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第115号 平成27年度郡上市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第115号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第115号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第116号 平成27年度郡上市ケーブルテレビ事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第116号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第116号は原案のとおり認定することに

決定いたしました。

議案第117号 平成27年度郡上市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第117号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第117号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第118号 平成27年度郡上市宅地開発特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第118号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第118号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第119号 平成27年度郡上市青少年育英奨学資金貸付特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第119号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第119号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第120号 平成27年度郡上市鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第120号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第120号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第121号 平成27年度郡上市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第121号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決

することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第121号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第122号 平成27年度郡上市小水力発電事業特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第122号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第122号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第123号 平成27年度郡上市大和財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第123号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第123号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第124号 平成27年度郡上市白鳥財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第124号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第124号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第125号 平成27年度郡上市牛道財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第125号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第125号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第126号 平成27年度郡上市石徹白財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第126号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第126号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第127号 平成27年度郡上市高鷲財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第127号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第127号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第128号 平成27年度郡上市下川財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第128号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第128号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第129号 平成27年度郡上市明宝財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第129号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第129号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第130号 平成27年度郡上市和良財産区特別会計歳入歳出決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第130号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第130号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第131号 平成27年度郡上市水道事業会計利益の処分及び決算の認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第131号に対する委員長の報告は原案を認定とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第131号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

議案第132号 平成27年度郡上市病院事業会計決算認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第132号に対する委員長の報告は原案を認定するものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第132号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

◎議案第143号から議案第145号までについて(委員長報告・討論・採決)

○議長(渡辺友三君) 日程30、議案第143号 財産の無償譲渡について(郡上市高鷲農畜産物処理加工施設とうふ工房)から、日程32、議案第145号 市道路線の認定についてまでの3議案を一括議題といたします。

ただいま一括議案といたしました3議案については、産業建設常任委員会に審査を付託してありますので、委員長より審査の結果についての報告を求めます。

産業建設常任委員長、5番 山川直保君。

○5番(山川直保君) それでは、産業建設常任委員会からの報告をいたします。

平成28年9月8日開催の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会に審査を付託されましたその他の3議案につきまして、平成28年9月23日開催の第4回産業建設常任委員会において、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告をいたします。

なお、経過については主な内容を報告いたします。

議案第143号 財産の無償譲渡について(郡上市高鷲農畜産物処理加工施設とうふ工房)。

農林水産部長から、隣接する民間事業所がとうふ工房の無償譲渡を受けることで、不採算部門で

あるとうふ製造から乳製品の生産施設に切りかえることができ、収益性を高めるなど、柔軟な対応により効率的な運営が期待できる。建物の譲渡については、転売などで不当な利益を得ることがないよう、国で定められた要領に準じて10年間は農畜産物処理加工施設として使用する条件としている。また、建物の敷地は、市有地になるので、用地については適正価格による売買、または有償による貸しつけを行いたいとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、10年間は製造内容を変更するための施設改修ができないのかとの質問があり、使用目的以外の増改築が生じた場合は、あらかじめ市長の承認が必要となるとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第144号 市道路線の廃止について。

建設部長から、既に市道認定を受けている八幡町小那比地内の字滝ノ上から字反戸坂の生屋線について、美濃東部農道と合わせて一体で管理するため、延長790メートルの市道を一度廃止するものであるとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、美濃東部農道の郡上市区間について質問があり、関市と郡上市にまたがる上之保小那比トンネル626メートルのうち、郡上市側278メートル地点から郡上市区間になる。関市区間については、既に市道認定されているため、同様に市道認定し、今年度中に供用開始を予定している生屋線と一体的に管理したいとの説明がありました。

廃止路線と生屋区内の現在の市道との関係について質問があり、廃止路線の起点側は生屋区内1号線で、市道が重複路線となること、また、廃止する路線は新設中の路線であるとの説明がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定しました。

議案第145号 市道路線の認定について。

建設部長から八幡町小那比地内字諸洞から字反戸坂までの区間1,762.6メートルを一つの路線として、市道認定するものであるとの説明を受けました。

特段の質疑はなく、本委員会としては全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

以上、委員会の経過と結果について報告をいたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会産業建設常任委員会委員長 山川直保。

よろしく申し上げます。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わったので、委員長報告に対する質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議案第143号 財産の無償譲渡について（郡上市高鷲農畜産物処理加工施設とうふ工房）に対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第143号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第143号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第144号 市道路線の廃止についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第144号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第144号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

議案第145号 市道路線の認定についてに対する討論の通告はありませんので、討論を終了し採決を行います。

議案第145号に対する委員長の報告は原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり可とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議案第145号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

◎請願第7号から請願第8号までについて(委員長報告・討論・採決)

○議長(渡辺友三君) 日程33、請願第7号 所得税法第56条廃止の意見書提出を求める請願書と、日程34、請願第8号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書採択に関する請願書の2件を一括議題といたします。

ただいま、一括議題といたしました2件は、所管の常任委員会に審査を付託してありますので、委員長より審査の経過と結果について報告いただきます。

総務常任委員長、7番 森喜人君。

○7番(森喜人君) それでは、総務常任委員会の報告をさせていただきます。平成28年6月13日開会の平成28年第3回郡上市議会定例会におきまして、本委員会の審査を付託され継続審査となっておりました請願1議案につきまして、平成28年9月26日開催の第5回総務常任委員会において、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告をいたします。

なお、経過については主な内容を報告いたします。

請願第7号 所得税法第56条廃止の意見書提出を求める請願書。

事務局から平成28年3月16日に行われた国会の財務金融委員会の会議録をもとに、所得税法第56条は、家族間で恣意的に所得を分割することを防止するために導入されたものであること。性別を問わず適用されており、女性の経済的な自立を損なうものではないこと。確定申告が青色と白色に分かれており、記帳のレベルによって専従者の給与に差があること、以前から所得税法第56条を見直すべきとの指摘があることから、引き続き財務省において検討していくことなど、財務大臣の答弁の紹介がありました。

審査の中で、委員から、所得税法第56条については問題があると指摘されているが、所得分割の防止措置として機能させるべきであるという意見もあることから、今後検討していく必要があると思うが、願意は廃止を求めており、今すぐ廃止にするという判断は適当でないという意見がありました。

所得税法第57条の青色申告と白色申告の専従者控除も合わせて考えていく必要があり、所得税法第56条だけを廃止することには問題があるとの意見がありました。

家族間で所得を分割することを防止するために、所得税法第56条は必要である、このことが男女差別になっているとは考えられないとの意見がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては、全会一致で、本件を不採択することに決定いたしました。

以上、委員会の経過と結果について報告いたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会総務常任委員会委員長 森喜人。

以上です。

○議長（渡辺友三君） 続きます、文教民生常任委員長、6番 田中康久君。

○6番（田中康久君） 平成28年9月8日開会の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会の審査を付託されました請願1議案につきまして、平成28年9月21日開催の第4回文教民生常任委員会において、慎重に審査いたしましたので、その経過と結果について報告をいたします。

なお、経過については主な内容を報告いたします。

請願第8号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書採択に関する請願書。

紹介議員から、国は地方自治体単独の医療費助成の取り組みに対して、医療費の波及増分は、実施自治体が負担すべきであるとして、本来国が負担すべき国民健康保険国庫負担金等の減額措置をしている。こうした減額措置は、緊急の国家課題である少子化対策に相反している。また、本市だけでなく、県下、全国の自治体から出された減額調整措置見直しの要求を受け、国も本年度中に結論を出すよう検討しているとの説明を受けました。

審査の中で、委員から、少子化対策は喫緊の課題である。全国知事会等からは、国の責任におい

て子どもの医療費助成制度を創設することを求めており、当議会からも、子育てをしながら地域の活性化につなげるよう、新たな支援制度の創設を訴える必要があるのではないかとの意見がありました。

以上、審査の結果、本委員会としては全会一致で本件を採択することに決定いたしました。

以上、委員会の経過と結果について報告いたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会文教民生常任委員会委員長 田中康久。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わりましたので、委員長報告に対する質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認めます。議案ごとに討論、採決を行います。

請願第7号 所得税法第56条廃止の意見書提出を求める請願書に対する討論の通告がありますので、討論を許可いたします。

4番 野田勝彦君。

○4番（野田勝彦君） 4番 野田でございます。

議長の許可をいただきましたので、通告にしがいまして、数点の討論を行いたいと思います。よろしくをお願いします。

御承知のように、改めて申し上げるまでもありませんが、我が国の、いわゆる家族労働による小規模な経営の方々、膨大な数があるわけです。第一次産業農業、漁業その他、第二次、第三次にわたるまで、もう数限りなく多くの種類があると思います。それらの方々は、家族がそろって働き、その収入が家族の共同の成果として家族の生活を支え、そして労働意欲の源泉になっているものと思います。

ところが、いま問題になってます、この所得税法第56条は、御承知のように配偶者や事業に従事する家族が、その対価の支払いを受けた場合、必要経費にそれを算入しないと規定しています。これが大問題であります。すなわち事業主の夫が、妻や家族労働の報酬や、いわゆる給料を支払っても必要経費とは認めないということですから、これは家族やあるいは妻の労働そのものを認定しない、法的に認定をしないということになります。

この所得税法は、明治20年といいますから随分古い、古い、今から百数十年も前の法律でございますが、それが1950年に現在の所得税法に改定されるときは、本来ならばシャープ税制の民主的体制の中で、これは抹殺されていくべきものであったんでしょすが、残念ながら残されてしまったんですね。その中で、当初、今の総務委員会の内容にもありましたけども、その税制を残した理由として、所得は世帯主が支配しており、家族に対価を払う慣行がない。確かに、家族に給料を払うというのは、当時、明治20年のころは全くなかったんでしょ。そういう慣行がない。

それから、恣意的な所得分配の恐れがある。これは大変難しい内容ではありますが、家族の中で

所得を好きなように勝手に配分してしまう。実はそれは大したもんだ出はないわけですが、そういうふうな理由がついてます。

それから、対価の支払いの明確性が、確認が困難だと、こういう理由を上げております。

こうしてつくられた、この所得税法56条、どういう問題があるのか、ちょっと確認をしていきたいと思いますが、まずは1点に、56条は家族やその従業者の尊厳や権利を奪っているということがあります。配偶者や家族の労働を法的に認めないわけですから、すなわち労働まで、夫が妻やあるいは家族を隷属物、ちょっと言葉はきついです、いわば夫の所有物として認めてしまってる。極めてこれは、前近代的な家父長的な制度そのものではないかと思えます。

また、現在におきましては、こうして控除を認めない、所得として認めない結果、何が起こってくるかといいますと、例えば妻が不測の事故に遭った場合、あるいは被害を受けたような場合の適切な査定が得られない。労働しておっても、してないと認定してますから、その補償が非常に低くなるか小さくなるかゼロになるのか、こういう問題もあります。

あるいは、健康保険等での手当、これにも大きな差が出てまいります。その他いろんな公的な給付で、不利益が起こってくることは指摘されてるとおりであります。これらが、長年の間反復されて、妻や家族の間に不利益が蓄積されている。これは大きな差別であり、そして権利の侵害であると思えます。

もう一つ大切なことがあると思えます。と言いますのは、こうした家父長的な仕組みの中で、ここで生活し、育っていく子どもたちは、どういう影響を受けるかということがあります。長い年月の間ですから、やはり現代的、近代的な家族観はなかなか養われないのではないのでしょうか。依然として、家父長的傾向も強い、そういう社会を今からも醸成していくように思えます。

御承知のとおり、我が日本は、女性の社会的地位は非常に低いです。さまざまな分野で女性の進出はまだまだ不十分。これは国際的にはずかしいくらいであります。こうしたことを是正するためにも、このベースとなっている家族のあり方、所得の認定、所得税法56条の廃止は、極めて重大な重要な問題だと思えます。

先ほど、総務委員長から報告がありました、委員会の皆さんが、多くの方がこれは検討しなきゃならない、検討に値するとおっしゃって見えました。でも、結果的には、さまざまな理由を挙げられて、これを不採択とされたわけであります。主要な理由は、所得の恣意的分割の防止のため、女性差別には当たらないんだ、青色申告があるではないか、この3つであります。それぞれ反論いたします。

家族間において恣意的に所得を分割する、それを防止するという理由が、これは財務省でも申し上げておりますように、財務大臣の答弁にもあります。しかし、家族が一緒になって収入を得たその分配は、そもそも恣意的なんです。これを防止する必要がどこにあるのか。夫にどれだけ分けて、

妻にどれだけ分けて、子どもたちにはどうするのか。一緒に働いたのなら、これは、その家族間で話し合い、恣意的に分割するものなんです。それを防止するというのは、そもそも理由としては成立しません。

一方で、もしこれを控除として認めるならば、収入が家族のほうに分配されるわけですから、家族のほうには所得が得られます。これを所得税として税収入の対象にすれば、何ら問題はないこと。

2つ目であります。確かにこの条文は、妻とも女性とも規定はしておらず、配偶者という言葉を使っています。だから、女性差別には当たらないというのは、私はちょっと思い出すのは、結婚における男女同一性の強制を思い出します。事実上は、一部の例外は除いて女性が改姓を、なかば強要される。これは男女、どちらを選んでもいいということから差別ではないという、そういう見解にありますが、実態は全く違います。これは皆さん御承知のとおりだと思います。それによって不利益をこうむり悲しい思いをするのは、多くは女性であります。これと全く同じ議論であります。したがって、財務大臣も言うておりますが、女性差別に当たらないというのは、空論であります。実態は女性差別そのものであります。

3番目です。青色申告があるではないか。もし控除が認められてほしいならば、青色申告にしたかどうかという議論です。そもそも憲法の納税義務に従って、納税は国民の自己申告を大原則としております。この自己申告を例外的にするのが青色申告であります。一定の特典を設けて、例えばこの妻の控除を認めるっていうのもその特典の一つでしょうが、一定の特典を設けて、税務署長のいわば許可のもとに、税務署の指導と称する指示に従って記帳をする。この方法が、納税の民主的なシステムや実践を損なうか、いろんな議論があるところは御存じのとおりだと思います。

したがって、白色という制度を原則的にちゃんと認めていてそれが存在してるなら、それに従って申告をしようとする者に、青色への変更を迫る、これは法的な補償にある白色申告存在そのものを否定することになる。白色を望む者は、正当にこの申告の仕方を認めるべきである。こうだったらこうせよというのは、法的には正しくはないと思います。

いろいろと述べました。考えて見ますと、憲法第13条には、個人の尊厳の尊重。第14条には法のもとに平等。そして14条は、男女の平等。こうしたさまざまな平等規定を私たちは持つてるわけです。いずれにしても、この第56条は、反する、その趣旨に沿わないものだと思います。

今、憲法を持ち出しまして少々大げさな話をさせていただきましたが、実はこの憲法を持ち出すまでもなく、大げさな話をするまでもなく、私は私たちの足元を見ていきたいと思います。それは御承知のように、今郡上市でもあちこちにたくさんの大型店舗が進出して、もう隆盛を極めております。そうした中で、中小の家族の労働による地域の商店は次々と消えていく。こうした小規模事業者を守って、それを支援していく、あるいは、買い物難民をどうするのかというのは、さきの一般質問でも議員の中から出されたとおりであります。そうであるならば、なぜこの56条廃止を

否定されるのか。

私は郡上市議会として、地域の零細の商店や事業者の方々に、56条の廃止を求めることによって、応援のメッセージを申し述べたいんです。ぜひとも御賛同いただいて、中小零細の小規模業者を応援しようではありませんか。

以上で、討論を終わります。

○議長（渡辺友三君） ただいま、請願の不採択に反対の立場での討論でありましたが、ほかに討論はありますか。

8番 田代はつ江君。

○8番（田代はつ江君） 8番 田代です。

ただいまの請願書は、所得税法第56条を廃止するという内容のものであります。委員長の報告は、全会一致でそれを不採択とするものです。委員長の報告に賛成の立場で討論をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

所得税法第56条だけを考えると、ただいまおっしゃったように、正当な労働に対する対価を認めないことについて法の不備を感じますが、労働に対する対価は、第57条により青色申告を白色申告の記帳のレベルにより、金額には違いがありますが、専従者給与を認めております。

また、事業主は、世帯主と決まっているわけではなく、妻でも子でも事業主になることはできます。したがって、白色専従者控除となる給与の額が少ないことが女性差別に当たるとは考えられません。

また、白色専従者給与の額を青色専従者給与と同じように決めることができるとなれば、これもまた白色専従者給与の必要性が問われることになってくると考えます。

この条文は、一つ一つが独立しているわけではなく、関係する条文が幾つかあり、それらを総合的に検討していかなければならないと思います。所得税法第56条は、第57条との整合性を図る必要があります。広く議論されるべきであると思います。

先ほどおっしゃったように、財務省でも検討していきたいと財務大臣が明言されていることから、所得税法第56条のみを廃止するこの請願については、委員長の報告どおり不採択に賛成するものでありますので、議員各位の御賛同をよろしくお願いいたします。

以上で、討論といたします。

○議長（渡辺友三君） ほかに討論ありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 討論なしと認め、討論を終結し、採決を行います。

請願第7号に対する委員長の報告は、原案を不採択とするものでありますが、採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(渡辺友三君) 賛成少数と認めます。よって、請願第7号は、不採択とすることに決定をいたしました。

請願第8号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める意見書採択に関する請願書に討論の通告はありませんので、討論を終了し、採決を行います。

請願第8号に対する委員長の報告は、原案を採択とするものであります。委員長の報告のとおり決することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議ありの発言であります。よって、起立によって採決を行います。請願第8号に対する委員長の報告は、原案を採択とするものであります。原案を採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(渡辺友三君) 賛成者起立多数と認めます。よって、請願第8号は、採択することに決定をいたしました。

◎議発第12号について(採決)

○議長(渡辺友三君) 日程35、議発第12号 議員派遣についてを議題といたします。議員派遣について、会議規則第169条の規定により、申し出があります。

お諮りをいたします。申し出のとおり議員を派遣することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、申し出のとおり議員を派遣することに決定をいたします。

◎報告第13号について(報告・質疑)

○議長(渡辺友三君) 日程36、報告第13号 専決処分の報告についてを議題といたします。報告を求めます。

理事兼総務部長 田中義久君。

○理事兼総務部長(田中義久君) それでは、報告第13号 専決処分の報告についてよろしくお願ひいたします。

地方自治法第180条第1項の規定により、次のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により報告する。平成28年9月30日提出、郡上市長 日置敏明。

おめくりいただきまして、専決処分書をごらんいただきたいと思いますけれども、和解及び損害賠償の額の決定について。

和解及び損害賠償の額の決定について、地方自治法第180条第1項の規定により、次のとおり専決処分する。平成28年9月9日に、市長が行ったものでございます。

損害賠償による和解の内容につきましては、これは本年6月20日午後3時ごろ、運転者である業務委託先職員が、国保白鳥病院の駐車場内におきまして、公用車を駐車させようと後退をした際に注意を怠り、停車中の相手車の右前方に接触したものでございます。

市は示談により、下記金額で損害を賠償することとなります。市の過失割合は100%、損害賠償の相手方につきましては、ごらんのとおりでございます。損害賠償の額は、7万3,850円となりました。大変申しわけございません。今後、十分注意したいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わったので、質疑を行いたいと思います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認めます。

以上で、報告第13号の報告を終わります。

◎議報告第7号について（報告）

○議長（渡辺友三君） 日程37、議報告第7号 中間報告についてを議題といたします。

総務常任委員会、産業建設常任委員会、文教民生常任委員会の視察研修報告を別紙写しのとおり提出されております。

各委員長の報告を求めます。

最初に、総務常任委員長、7番 森喜人君。

○7番（森 喜人君） それでは、総務常任委員会の行政視察報告をさせていただきます。

1ページから10ページまでなんですが、9ページの所管のみ報告させていただきます。平成28年8月23日から24日、2日間にわたりまして、総務常任委員会の視察を行いました。所感ということで報告いたします。

富山県の「南砺市、南砺で暮らしません課」という課の中に、婚活を専門とする係をつくって、相談業務等を行い、婚活応援団体である、「なんとおせっ会」を立ち上げ、市長みずから会員となっており、会員の多さに驚きました。結婚を希望する男女で組織する、「婚活倶楽部なんと」も大変多くの方が入会しており、少子化は婚活の減少が原因であるとの共通認識のもと、一丸となって進めているというと感じました。行政・婚活応援団・婚活希望者の関係を総合的な体制で取り組むことは、郡上市としても学ぶべき点が極めて多いと思いました。市全体の希望といきごみを感じたところでございます。

富山県魚津市につきましては、この平成12年度交通活性化計画以来、職員の異動を少なくして、長期的な視点で取り組んでおられました。201平方キロメートルと、郡上市の2割弱の面積しかないため、バス路線は長くても20キロメートルぐらいということであり、効率がいいと感じました。料金は、運行距離に関係なく200円に統一されている。利用していただくことを優先すれば、郡上市の料金も検討する必要を感じました。

八幡町内のまめバスにも、バスロケーションシステムがあると便利だと思われました。魚津のバス運行は、当初と運営主体が変わっており、変化していく状況を見据えた上で、より使いやすく運営しやすいシステムを追及していくためには、担当者が長い目で見ていくことも重要だと考えます。

石川県小松市、防災について研修いたしました。

特に大きな防災を経験したわけでもないんですが、市長のリーダーシップのもと、防災に関する市民への意識づけが徹底されておりました。246町内の自主防災組織の結成率は100%であり、自主防災組織評価制度を設け、各自主防災組織は5段階評価をされていました。

低いランクに評価された自主防災組織はランクUPプランが用意されており、ワンランク上を目指して取り組むことになっていました。形だけの組織をつくるのではなく、常に防災を意識した地域活性が展開されているのではないかと感じました。自然の猛威に対しては、100%の対応は不可能でありますけども、小松市のあらゆる事態を考えた取り組みは、学ぶことが多くありました。

以上、委員会研修の報告をいたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会総務常任委員長 森喜人。

○議長（渡辺友三君） 次に、産業建設常任委員長、5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） それでは、産業建設常任委員会の行政視察の報告をさせていただきます。

去る7月25日から7月27日にかけての3日間、委員6名全員と事務局1名との参加のもと、3県にまたがって視察を行ってまいりました。11ページの所感のみを説明させていただきます。

今回の行政視察は、どの視察先も、本市に類似する自然や産業基盤であることから、各委員からは積極的な質疑が繰り出されました。

まず、第1日目の岡山県西栗倉村では、「百年の森林構想」を掲げられていました。構想により育てられた大径木林分は、木材利用に加え、上質な田舎づくりを目指すものでありまして、村ぐるみで取り組む姿には、感心をいたしました。

しかしながら、本市の森林整備施策においては、林齢の大部分が適齢伐期に達することや、また大型製材工場の稼働によりまして、より素材生産が、今後求められることから、現在は西栗倉村の構想を習う必要性はないものと私は感じました。

2日目は鳥取県の倉吉市にまいりました。倉吉市の打吹地区重要伝統的建造物群につきましては、江戸時代から現在まで、改変の少ない人口河川の玉川沿いに並ぶ武家屋敷、酒蔵などは見応えがあ

りました。なお、本市のような無電柱化の計画は現在はないとお聞きいたしました。本市の伝建保存計画は、現計画をしっかりと進めていくことで、他に引けをとることはないと感じました。

また、それから移動いたしまして、兵庫県のハチ高原、スキー場とかリゾート地でございますけれども、その視察を行いました。

ここでは、皆さん方も御承知のとおり、御承知だと思いますが、マックアースグループのCEO一ノ本会長が経営される、野外教育施設を見てまいりましたが、一ノ本本人様から説明をいただきました。

ここは、冬季間のスキー場をメインに集客をしておりますが、春から秋にかけてのグリーンシーズンは、関西一の野外教育のメッカであります。学習メニューは150種類以上がありまして、シーズン中、約40万人もの受け入れを実現しております。高原の環境を生かした産業振興は本市よりも進んでおりまして、今後の施策に積極的に取り入れられる必要を感じました。

第3日目のこれまた同じ兵庫県の養父市でございます。養父市は、典型的な中山間地であり、人口減少や耕作放棄地、獣害も多く、本市に類似するまちでありました。平成26年度より、中山間地域農業における改革拠点として、国家戦略特別区域となりました。中山間地域の農業改革で特区を取得された熱意には感銘をいたしました。特色といたしまして、農業委員会の権限である農地の権利移動、移動を市に移譲したことや、農業生産法人の要件緩和など、ほか3項目の特例や、制度の適用が行われております。

また、指定から3年目ということで、耕作放棄地に3つの新農業法人が手を入れ始めた段階でして、まだその成果が現実にあられてないということで、その現地を見ることはできませんでした。

本市においても、耕作放棄地の活用は大きな課題があります。本市に適した施策を考えさせる、よい視察地でありました。

以上、報告を終わります。

○議長（渡辺友三君） 続いて、文教民生常任委員長、6番 田中康久君。

○6番（田中康久君） それでは、文教民生常任委員会の行政視察の報告をさせていただきます。

平成28年7月12日から13日まで、長野県の須坂市、新潟県の柏崎市に伺いまして、それぞれ視察研修を行わせていただきました。

所感を報告させていただきます。12ページでございます。文教民生常任委員会の方針、今期の方針の一つ、災害時の要配慮者への支援のあり方ということの研修をするために、2つの市を伺いました。

まず、長野県須坂市では、「新・地域見守りネットワーク」による災害時避難行動要支援者への支援のあり方について学ばせていただきました。災害時避難行動要支援者名簿と地域防災マップの連携により、地域によっては認知症の方のいる世帯を掲載されていたり、効果的な情報把握に努め

られておられました。

また、新・地域見守りネットワークの更新に関し、会議費の助成を行いながら、最新の情報の把握に努められておられました。今後については、名簿に同意されない方々への支援が課題であるとのことでありましたけども、普段からの見守り活動の重要性を改めて認識するとともに、本市において、要支援者への個別支援計画の作成が求められることを感じました。

新潟県の柏崎市では、「災害時避難行動要支援者の避難対策」について視察研修を行いました。

中越地震、中越沖地震と実際に震災を体験され、避難所を運営され、復旧に向け御尽力されている担当者の方からお話を伺うことができました。庁用車を使つての備蓄品の運搬は震災当日の道路状況により限定的だったこと。避難所を利用されない、在宅生活者への支援のあり方など、机上と実際の違いについてなどをお話いただきました。

震災後、防災に対する意識、危機感の高まりにより、自主防災組織の組織率の向上があり、市と各自主防災組織の避難所運営に関する協定書を締結しているとのことでありましたけども、本市の自主防災組織のあり方も考える契機をいただきました。

全国から支援された物資の中で不足していたものは、要配慮者、食事制限者、アレルギー食、介護食、おむつなど、災害弱者用の物であり、対応が必要であると感じました。

また、避難所に福祉避難室を設けるなど、要配慮者へのきめ細かな支援が行われておられました。福祉避難所へ移動する前段階での支援であるが、そのための避難所運営におけるマニュアルや避難所名簿の項目の充実などの必要性を感じたところであります。

以上、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（渡辺友三君） 以上で、議報告第7号の報告を終わります。

ここで、暫時休憩をいたします。11時5分を再開予定といたします。

(午前10時55分)

○議長（渡辺友三君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

(午前11時04分)

○議長（渡辺友三君） ここで日程の追加をしたいと思います。

議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算（第4号）について、議案第147号 工事請負契約の締結について（（仮称）郡上市歴史資料文化財収蔵施設新築（建築）工事について）、議案第13号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額措置の廃止と子ども医療費の助成制度の創設を求める意見書の3議案を日程に追加したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認め、日程に追加いたします。追加日程につきましては、お手元に配付してありますのでよろしくお願いをいたします。

◎議案第146号について（提案説明）

○議長（渡辺友三君） 日程38、議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算（第4号）についてを議題といたします。説明を求めます。

理事兼総務部長 田中義久君。

○理事兼総務部長（田中義久君） それでは、議案第146号をお願いいたします。平成28年度郡上市一般会計補正予算（第4号）でございます。上記について、地方自治法第218条第1項の規定により、議会の議決を求める。平成28年9月30日提出、郡上市長 日置敏明。

おめくりいただきまして、1ページのところ、お願いをいたします。第1条のところ、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ8,670万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出予算それぞれ282億6,252万5,000円とする。

それから、第2項は省略をいたします。地方債の補正ですが、第2条地方債の追加は第2表地方債補正によるということでございます。地方債の補正につきましては、4ページに記載をさせていただいてますが、今般追加で補助災害復旧事業2,730万円を追加するものでございます。

今回の補正につきましては、事項別明細のところと、全体の資料をお配りをさせていただいておりますのでごらんをいただきたいと思いますが、先般の大雨が9月に入りましてから2回ございまして、その災害復旧事業に充てるものでございます。よろしくお願いをいたします。

○議長（渡辺友三君） ただいま説明のありました、議案第146号については、議案付託表のとおり、予算特別委員会に審査を付託します。なお、質疑については、予算特別委員会において行うこととし、ここでは省略をいたします。

お諮りをいたします。ただいま予算特別委員会に付託しました議案第146号については、会議規則第44条第1項の規定により、9月30日午後4時までに審査を終了するよう期限をつけることにしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議案第146号については、9月30日午後4時までに審査を終了するよう、期限をつけることに決定をいたしました。

ここで暫時休憩といたします。

（午前11時09分）

○議長（渡辺友三君） それでは、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

◎議案第146号について（委員長報告・採決）

○議長（渡辺友三君） 議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算については、予算特別委員会に付託してあります。予算特別委員会委員長、尾村忠雄君より報告を求めます。

15番 尾村忠雄君。

○15番（尾村忠雄君） 予算特別委員会報告書。平成28年9月8日開会の平成28年第4回郡上市議会定例会におきまして、本委員会に審査を付託されました議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算につきまして、平成28年9月30日開催の第11回予算特別委員会において慎重に審査いたしましたので、報告いたします。

なお、全議員参加の委員会ですので、詳細な報告は省略し、結果のみ報告いたします。

議案第146号 平成28年度郡上市一般会計補正予算（第4号）について、審査の結果、本委員会といたしましては、全会一致で原案のとおり可とすることに決定いたしました。

以上のとおり、報告いたします。平成28年9月30日、郡上市議会議長 渡辺友三様。郡上市議会予算特別委員会委員長 尾村忠雄。

以上です。

○議長（渡辺友三君） 報告が終わったので、委員長報告に対する質疑を行います。

（「質疑なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認め、採決を行います。

議案第146号に対する委員長の報告は、原案を可とするものであります。委員長の報告のとおり決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認め、よって、議案146号は原案のとおり可とすることに決定いたしました。

◎議案第147号について（提案説明・採決）

○議長（渡辺友三君） 日程39、議案第147号 工事請負契約の締結について（（仮称）郡上市歴史資料・文化財収蔵施設新築（建築）工事）を議題といたします。

説明を求めます。

教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） 議案第147号 工事請負契約の締結について（（仮称）郡上市歴史資料・文化財収蔵施設新築（建築）工事）。

次のとおり、工事請負契約を締結したいから、郡上市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求める。平成28年9月30日提出、郡上市長 日置敏明。

1、契約の目的、（仮称）郡上市歴史資料・文化財収蔵施設新築（建築）工事。

契約の方法、一般競争入札による。

契約金額、4億7,790万円。

契約の相手方、郡上市大和町剣1760番地、株式会社ヤマシタ工務店、代表取締役山下健一。

工事の場所、郡上市八幡町中坪地内。

工事の概要、建築工事一式でございます。

1枚おめくりをいただきまして、資料といたしまして工事概要書をつけております。重複する部分は省略をさせていただきます。

4、工期、本契約締結の日より平成29年10月31日でございます。

7、工事内容、構造・規模でございますが、鉄筋コンクリート造2階建て・一部地下1階建てエントランス棟床面積376.61平米、木造2階建て収蔵棟床面積505.90平米、同じく木造2階建て展示棟505.90平米、合計延べ床面積が1,388.41平米でございます。

なお、展示棟という表示がしてございますが、次の裏面のページにございます展示及び閲覧コーナーにつきましては約95平米ということでございます。

木造2階建て収蔵棟、展示棟となっておりますが、こちらにつきましては、その下でございますが収蔵棟、展示棟の外部仕上げ・内部仕上げ等をごらんいただきますと、屋根等につきましてはガルバリウム鋼板、それから、外壁につきましてはALCパネル——軽量気泡コンクリートということで、不燃のものを使用をいたしまして、火災に備える設備内容というふうになっております。

次のページを裏面をごらんいただきますと、各部屋名と室内の機能がついてございます。

真ん中にございます特別収蔵庫・写真収蔵庫につきましては、1階部分でございますが、備考にございますとおり恒温恒湿仕様ということで、温度・湿度を一定で影響を受けないような仕様となっております。

その下が閉架書庫、それから、その1つ下が一般収蔵庫というふうなことになっておりますが、古文書類あるいは書画工芸品等につきましては、こちらの一般収蔵庫のほうへの収蔵を予定しておるということでございます。

なお、特別収蔵庫が1階に設置をいたしました理由につきましては、屋根からの熱の影響を極力小さくするというので、1階に特別収蔵庫が設置してございます。

それから、次のページが配置図になってございますが、建築位置が旧中坪庁舎のところでございます。ちょっと横長に見ていただきますと、左側に小駄良川が流れておりまして、小駄良川の氾濫

等も考慮いたしまして、石積みのいわゆる崖部分でございますが、こちらからは約20メートルほど離れまして建物のほうを建てる予定でございます。

なお、上の部分でございますが、隣地境界がございますが、こちら隣家からの類焼を防ぐというような意味で極力、約5.8メートルほどでございますが、距離をとっておるというような配置になっております。

次のページがエントランス棟の地下1階部分でございますが、こちらは埋蔵文化財の収蔵を予定をしております。

次のページが1階部分に当たります。中央がエントランス棟、向かいまして右側が展示棟、左側が収蔵棟というふうになっております。

なお、エントランス棟につきましては、1階部分につきまして来場者の対応を行うような受付カウンター、現在こちらのほうには図示してございませんが、こういったようなものでも対応をしていきたいというふうなことでございます。

それから、展示棟の1階部分でございます。下段のほうに、ちょっと字が細こうございますが、外部多機能トイレということでございますが、この建物の周囲でございますが、約50台の駐車ができるということから、駐車場利用者のトイレということで、この建物の1階部分は、外部トイレといたしまして利用ができるように設計のほうをいたしております。

次のページが2階でございます。2階の部分につきましては、エントランス棟が中央でございまして、向かいまして右側が展示棟でございますが、こちらに先ほど申し上げました展示コーナー・閲覧コーナーが入りまして、この閲覧等への資料の貸し出し、あるいは展示コーナー等の管理のために、2階のほうに事務室を配置してございます。

次のページが立面図でございます。

それから、次のページが完成のイメージ図ということでございます。

それから、その次のページでございますが、入札結果のほうを載せております。

それから、次のページが関連の工事でございますが、3つございまして、1つ目が中坪庁舎の解体の工事、これはもう既に終えておりますが、ごらんとおりでございます。それから、この文化財収蔵施設の電気設備工事並びに機械設備工事につきましては、入札につきましては終わっておりまして、本日9月30日付で契約を行う予定というふうになっております。

次のページが全体の工程表でございまして、先ほど申し上げましたとおり、本体工事、電気工事、それから機械設備工事につきましては、29年の10月末に一応完成を予定をしております。それから外構工事等に入りまして、それからあとは備品類等の購入ということで、運営の開始といたしましては、平成30年の4月から運営を開始したいということでございます。

それから、最後のページでございますが、収蔵庫に現在収蔵が見込まれる資料というのをつけさ

せていただきました。真ん中に行政文書というふうにございまして、これは、合併でございまして、庁舎の移転・統廃合、あるいは、文書規定によります廃棄というのがございまして、貴重な歴史資料となるべき公文書が廃棄されることを防ぐという意味で、いわゆる公文書館的な機能も持たせたいということでございますが、これが調査をいたしまして、現在の容量の約2分の1ほどを占めるということでございます。これが一般の収蔵庫の部分でございます。

なお、その2段下に書画工芸品がございまして。現在、市のほうに寄贈を受けまして、あるいは、市が所有してある物もございまして、これまで施設がないために受け取りのほうを御辞退をしておいたような物につきましては、受け取りの基準に従いまして順次収蔵のほうをしていきたいという予定でございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（渡辺友三君） 説明が終わったので、質疑を行います。

（挙手する者あり）

○議長（渡辺友三君） 5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） 何点か伺いますが、まず、これの参考のところにもありましたけど、工程表には舗装工事というふうにございまして、外構に関してはここに書いてないんですが、機械とか電気は書いてありますが、予定はどうなっておるかということと、予算措置はどうしておるかということとをまず1点伺いたいことと、今50台ほどのスペースがあるということをお聞きいたしましたけど、踊りシーズン中も含めて、有料の可否も含めて、大型バスの駐車場も非常に近年足りないということから、そのあたりの想定をどうされてるかということをお伺いしたいと思います。

また、この外観の完成予想図を見ると、もっと趣が必要じゃないかなと、趣といいますか、木も植えたりして、やはりこの収蔵庫にふさわしいような風格といいますか、風貌といいますか、そういったことが少し必要でないかということをお聞きしたいですね。そういうことを思うと、やはり造園工事といいますか、そういうことも必要になるんじゃないかなということをお聞きしておいて、せっかくだらうならそういうふうにございまして、今後もあるのかなということをお聞きしたいと思います。

また、閲覧室・展示室には、閲覧者を10名想定、あとパソコンの椅子見ますと、2つの椅子が置いてありますので、12名がこういう展示が可能かと思うんですが、50台の駐車場を有して、入り込みを50台から考えた場合に、到底10名から12名という閲覧では足りないということをお聞きし、もしくは、観光バス等でここを見たいといった場合に、見えた場合に、10名から12名では足りないと思います。そして、この部屋に12名入ろうと思ったときに、消防法上、大型バスで40名見えたときに、10名ずつしかその部屋には入らせてもらえないと思うんです。もしも火災が起きた場合の誘導

とか、あと廊下の広さ、そして消防の設備から、10名そこそこしか入れずに下で、例えば、規制をされて10名ずつ入れて、交代してまた10名ずつ入れてという閲覧方法をとられるのかと、そのあたりの消防法、消防法はこの部屋に20人入ることは許されるかどうかをお伺いいたします。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） それでは、まず1点目でございますが、通常、こういう建物でございますと、周りのほうに今の植樹でございましたり、そういう造園を施すということでございますが、実はこれ、基本計画の中で、例えば、木を植えますと、当然でございますが、その葉っぱですとかそういったものに例えば虫がつく、あるいは、それが落葉をしまして、落葉樹でございますと下に落ちまして、それか、土等がございますと虫ですとかそういうものが発生するというところで、極力この建物の周りには、虫でございましたり、あるいは、そういうものが入り込まないように、これを逆に言いますと遠ざけたといったような格好で、今御指摘ございましたように、やや建物が大きくて、その周りにグリーンと申しますか、そういうものがないということでちょっと無機質な感じはいたしますが、機能上そういうふうにさせていただいたというものでございます。

それから、駐車場でございますが、先ほど50台というようなこととお話しさせていただきましたが、実は、こちらの敷地、ここに収蔵庫をとったようなときに、一つ庁内のほうでも議論がございまして、この市街地の北部のところ、せつかく今回中坪庁舎が移転をいたし、移転と申しますか、庁舎機能がなくなりまして、そして、ここをできたら駐車場ですね、市街地の北部ゲート、北部の入り口といったような意味で、建物ではなくて駐車場にしたいというような議論もございました。その中で、やはり収蔵庫の位置といたしましては、伝建地区の中には入っておりませんが、伝建地区の入り口でもあるということで、収蔵庫といたしましてはここを選択させていただいたんですが、今御指摘のとおり、収蔵庫そのものの展示の機能と申しますのは、例えば、バスでたくさんの方に見ていただくというような、いわゆる博物館とかそういったようなものではございませんで、こちらの展示コーナーは、あくまでも調査・研究をいたしまして、新たな発見がございましたとき等に、その成果のほうをここに紹介をさせていただく。そして、その成果、物にもよりますが、その成果を見ていただく場所といたしましては、他の資料館とかそういったところがございまして、そういった中で企画展というようなことで設置をしていきたいということで、このところ、例えば、50台のお客様がおいでになるということは、現在、想定をしていないということでございます。

それから、閲覧者の方も、これはやはり歴史に非常に興味のある方が団体で来られたらどうかというような問題はございますけれども、閲覧者も、例えば、バスでたくさんお見えになるとかといったことは、想定はしていないということでございます。

それから、例えば、ここを踊り期間中に、バスのいわゆる駐車場等ではどうかといったようなこ

とでございますが、御存じのとおり、こちらのほうの施設に入ります道路に面しましたところの間口のほうが狭いと、間口を広げましても、その前の道路幅が非常に狭うございまして、大型観光バスが出入りをするということについては、ちょっと非常に危険であるといったようなことで、現在、バスをこちらの中に誘導をするというような想定はしてございません。

ただし、一般の普通車のほうの踊りの会場の臨時の駐車場になるということは想定をしておりますが、バスのほうは、そういう意味では想定をしていないということでございます。

それから、先ほど当初に申しました、敷地を検討いたします際に、実はこの駐車場の大部分のところは、実は借地でございまして、そして、この建物の必要な面積といたしましては、今申しました市が所有をしておる面積だけで十分ではないかという議論もいたしましたが、それでもやはりなかなか町なかに近いところで50台をとれるというようなスペースはございませんので、この際、お借りをしてでも、ちょっと目的のほうは、そういう意味では、収蔵庫としてはそれだけ不要でございますが、やはりおいでになる観光客の方ですとか、そういった方の一部でも、北部ゲートというようなものの機能が発揮できるようにということで、現行の駐車場をそのまま舗装をさせていただくという計画でございます。

○議長（渡辺友三君） 5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） それで、舗装は、この参考資料のほうにも書いてないですが、工程表に書いてあります舗装は計画されて、もうこの9月30日とは言いませんが、できてもらってからですけれども、それをしっかりと計画されて、予算措置をもう考えられておるかということを確認したいことと、先ほど私聞いたのは、消防法上、20名がここへ入っても、上の展示コーナーですね、12名と書いてありますが、20名入っても、これは法的に大丈夫なものなのかどうなのかということをお聞きしたいということと、下のトイレは、踊りのとき、踊りが終わったとき、もうしっかりと開放しとらんと、駐車場にトイレはつきものですから、そうしたものの開放は考えられておられるかということをお聞きしたいと思います。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） それでは、まずトイレのほうの話でございますが、こちらのほうは、あくまで外部トイレという考え方をしておりますので、この収蔵庫の閉館時間になりましたら鍵をかけるとかといったことは思っておりませんので、24時間と申しますか、そういう対応がさせていただけるというふうになっております。

それから、駐車場のほうにつきましては、舗装をさせていただくという予算としております。ただ、この今の本体の工事の中には入ってございません。

それから、消防法のことにつきましては、ちょっと確認をさせていただきますが、もちろん消防法で定められた人数を超えるというような場合には、ちょっと入場のほうを制限をさせていただい

て対応していきたいというふうに考えております。

○議長（渡辺友三君） よろしいですか。

○5番（山川直保君） はい。

○議長（渡辺友三君） 10番 山田忠平君。

○10番（山田忠平君） 今回、市にないしっかりとした収蔵庫の施設ということですが、機械室があつたり、あるいは特別の害虫の駆除、あるいは湿度・温度、いろんなことが関連された設備がされると思いますが、この施設で、例えば、国宝級の物も一時預かった場合に入れることができ得るのかということと、それから、そういった特別な設備でこういうことがありますよってことが、もし参考があれば、聞かせていただきたいということと、それから、先ほどのトイレのことですけど、この図面を見ますと、もちろん多機能がありますので、スロープの関係は、左側から万が一、車椅子の人は入れますが、この反対の右側がどうも段差になっておるようですけど、こっから車椅子とは言いませんが、段差でなしに、これ2メートル500ぐらいあるわけですが、ここは多少急に角度、急勾配になるかもわかりませんが、すっとしたほうがどうかっていうことをちょっと感じておりますが、その辺はどうかってということと、それから、このトイレが一般開放されると、やっぱり照明のこと、今言われましたが、もちろん確保されておりますが、全体的な入り口を含めた防犯カメラは設置があるのかなのか、その辺のことについてお伺いをいたします。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） それでは、この収蔵庫の特別のそういう特徴でございますが、まず、先ほど申しましたように、収蔵棟は木造でございますが、まず耐火と申しますか、まず火を中から出さない、それから外からの影響も防ぐということでございまして、二重壁ということになっております。

それから、虫等の混入等を防ぎますために、気密性の非常に高いものを使用しております、これは、専用の施工業者のほうで、専門メーカーのほうで気密性を高めてもらうという施工になっております。

それから、万が一、中で火が出ましたときに、これは収蔵庫のほうでございますけども、やはりこれがスプリンクラー、通常の水でございまして、あるいは消火薬剤になりますと、その消火薬剤で文化財が傷んでしまうというようなことがございますので、これは不活性ガスということで、いわゆるガスを入れまして火を消すというような内容になっております。

それから、先ほど冒頭に御質問のございました、いわゆる国宝級の物を借りてきたときとかっていったことでございますが、現在、郡上市のほうでも、いろんな博物館、資料館っていうのは持っておりますけれども、やはりその辺の例えば盗難の対策の問題でございましたり、あるいは、今の湿度・湿度、温度・湿度が常に一定でといったようなところがございません。それで、最近では、

やはり温暖化ということと、それから台風がたくさん来ますと、非常に高温・高湿になるといったようなことで、前は考えられなかったんですが、カビが発生をしてくるというような案件がやはりふえてきておりますので、そういう非常にカビといったような対策が必要であるようなものについては、こちらのほうのちゃんと適切な環境で収蔵ができるところへ入れていきたいということでございます。

それから、スロープのほうでございしますが、立面図をちょっとごらんをいただきますと、ちょっとこれ、小さいもんですから見にくいんですけども、立面図の左上でございします。これがこの建物を正面から見ましたところでございますが、左側のほうからずっと上がりまして、そして、入り口のところをってトイレの入り口になります、右側の。ここのところに屋根をつけておりますので、例えば、雨等で御苦労をなさるといったようなことがない、ここへ入るまでということになりますけども、ということで、こちらの片方のほうから、屋根つきのところから上がっていただくということを想定しております。

以上でございます。

○議長（渡辺友三君） 10番 山田忠平君。

○10番（山田忠平君） 10番。わかっております。それはわかるとるんやけど、だから、例えばスロープの関係のことは、右のほうはここで一旦切って段になつとるんだけど、スロープの角度が強くて、むしろ一般の方も利用するには、ここの段がないほうがいいんじゃないかっていうことのちょっと意見を言ったんです。それがいいか悪いかはわかりませんよ。

それから、先ほど言った、万が一、一時、国宝級の物でも預かることについては、別に可能なそういう全国にあるような特別な施設と類似のものでいいんですね。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） それでは、先にトイレのほうの件でございますけども、1階の平面図をごらんをいただきますと、実は、立面図ではちょっとわかりにくいかもしれませんが、トラックヤードというのが、実はここへ荷物を運んできて入るといったことで、こちら側のほうにスロープをつけますと、トラックのほうと、これはこの建物の図面からいきますと右側、道路と平行して走っておりまして、右側からトラックが入り込んできてトラックヤードのところへ行くというふうになってございますので、ちょっとこちらのほうにスロープを配置をするのはどうかといったようなところで、片方にさせていただいたということでございます。

それから、今の収蔵の機能につきましては、今の防犯、それから恒温・恒湿、それから今のカビですとかそういった菌類の侵入を防ぐことができますので、恐らく、これまでの中では、十分そういう機能が果たせるのではないかと。これは、ただ、お借りできる先の方の了承ということにはなるかと思いますが、そういうふうに対応ができるのではないかとこのように思っております。

○議長（渡辺友三君） 10番 山田忠平君。

○10番（山田忠平君） 私は、右側のほうからスロープをつけて、そういったことの出入りをするようなものをつけよっていうんでなしに、左から入る、それはいいんです。いいけど、たまたま正面のトイレに入るところに、恐らく段が、どんだけかわからんけど、あるんです。図面になつとるもんで、そこは別に健常者の人も普通にすらつと、多少勾配が強くてこっちから楽に段差のないようなこと入る、角度をする、屋根の部分からいくと、恐らく図面でいくと2メートル五、六百あることになつとるんです。そこが別にこの段差があったほうがいいのかないのか、私はないほうがいいんでないかっていうことを言っておるだけで、この今、例えばこの図面、絵の図面でいくところ、ここ。ここ。この部分。こっちはもちろん車椅子、いろんな人が、これはいいんです。いいけど、ここが段があるもんで、階段になっておるもんで、それはないほうがいいんじゃないかってことを言ってるんです。わかります、言ってること。

○議長（渡辺友三君） 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） 向かって右側のところに2段ほどあるこの段はどうかということでございますね。健常者の方は、この2段を恐らく上られるのではないかというようなことで設計しております。失礼しました。

○議長（渡辺友三君） 18番 美谷添生君。

○18番（美谷添生君） この収蔵庫と資料館については、かねてよりの施設でありますので、反対することではございませんけれども、いかにも全容を示すのに遅いんじゃないかという気がいたしておりますが、ここで今トイレの話も出ておりましたけども、木造でありますし、外トイレというようなことは、これは外から使えるトイレということで、この収蔵庫の中へ持ち込むということは、非常に僕は不合理だと、トイレはトイレだけで別途につくったほうがいいのかという気がいたします。そんな中で、今後とも、検討をしていただくというようなことが可能であるかないかということについてお伺いをします。

○議長（渡辺友三君） 答弁を求めます。

教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） 当初は、1階の中のほうに、実はトイレのほうの当初の計画ではつくっておりましたが、先ほど申し上げましたとおり、50台といったような駐車場がありますと、やはりどうしてもトイレをといたようなことで、これをただ別棟で建てますと、やはりその分、それで別棟でありますと、またやはり中にも1階の部分にトイレは必要だろうということで、経費の節減という意味からも、それから、トイレでございますので、やはり維持管理といったことも出てまいりますので、兼用をするような形で設計をさせていただいたということでございます。

○議長（渡辺友三君） 18番 美谷添生君。

○18番（美谷添 生君） 今、建設の当時はそうかもしれませんが、これを使っていく身になると、これは後々こうしたほうがよかったんじゃないかというような意見が出そうな気がしております。そういうことで、今後とも、今後ともといいますか、これからも普通の建設工事でも、設計変更とか、途中のことはあるわけですので、そこら辺をよくよく配慮をいただきたいなということ意見を申し上げておきたいというふうに思います。

○議長（渡辺友三君） 大分まだ質問ございますか。

そうしましたら、ここで暫時休憩をいたします。再開は2時45分です。

市政功労者表彰式典がございますので、それが2時半ごろまでかかりますので、その以後に再開をいたします。

以上です。

（午後 0時02分）

○議長（渡辺友三君） それでは、予定しておりました再開時間より若干早いですけれども、ただいまより会議を始めます。

（午後 2時35分）

○議長（渡辺友三君） 先ほどの議案第147号 工事請負契約の締結についてを議題といたします。
質疑ある方ございませんか。

3番 原喜与美君。

○3番（原喜与美君） 3番、原です。

運営上の点なんです、2点ほどお尋ねしたいんですが、よろしいでしょうか。

まず最初に、駐車場の件なんです、先ほど説明がございましたように、借地が駐車場になるということでしたが、また、収容人員なども見ますと、余り大勢の収容をする施設でない。しかし、駐車場としては、大いに使いたいというようなお考えだと思うんですが、借地であり、施設の利用者が使う駐車場を中心にされたのか、それ以外の方を中心に考えておられるのか。また、駐車料金はもちろん今の状態だと取られないと思うんですが、そういう点の一つお聞きしたいのと、もう一つは、私もこの建物が建つというのは、以前から聞いてはおりましたが、収蔵庫中心ということはちょっと思っておりませんので、せっかく八幡のいい場所に設置をされるということなんで、いわゆる観光客の方々に郡上市内の貴重な文化財っていいですか、そういう物を展示して見ていただくというのがよっぽどいい場所だなということを思っておりましたので、展示が主じゃなくて、収蔵が主だというような御説明を受けましたが、ちょっと残念だなということを思いますが、私としては、これからの運営上の問題ですので、先ほどある議員からも質問がありました、せつ

かくなら特別展示のようなこととして、また、入館料についてもどうなるのかわかりませんが、観光客の方々にそういった文化財を見ていただくということもいいんじゃないかなと思いますので、そういう点のお考えがあるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） それでは、まず1点目の駐車場でございますが、議員のほうは今申されましたとおり、この建物そのものとしたしましては、今この建物の川側にあります台数で、ほぼ来場者も十分あろうかと思えます。

ただし、先ほども御説明させていただきました、ここの中坪の庁舎がなくなりました跡地を検討する際に、やはり今市街地に近いところでこれだけ、今これで50台ですが、この建物をもし建てないとしたらと、ここにあとどうでしょうか、二、三十台はとまる。そうすると、ざっと70台、80台がとめれる空間がここにとれるといったようなことがございまして、もともと市街地北部にアクセスするために、北側のほうですね、北側のほうからのいわゆる玄関と申します、ゲートというふうに前は呼んでおりましたが、北部のゲートというのがないので、この機会にここに設けられないかというような議論もございました。その際に、最終的には収蔵庫になりましたが、収蔵庫になりました際に、今お借りしておるところをお返しをすることはできるんですが、それでもやはりここにこの建物を建てましても、50台ぐらいが駐車を、そのまま継続して使わせていただければ、50台ぐらいがとめれるということで、台数は若干と申しますか、ちょっと減りますけども、その機能もあわせて持たせたいというようなことで、こういうような案になったということで、したがって、この建物自体の駐車スペースとしては、倍以上と申しますか、そういう数量にはなりますけども、今申しましたような、北町、北部の観光客の方もお見えになるとは思いますけども、そういった方のために、あえて駐車場もこのままお借りをしてやっていきたいということでございます。

それから、この建物でございますが、これはよくそういう御質問、御意見をいただきました。いわゆる歴史資料館的なものとか、そういうものができるんじゃないかといったようなことでしたが、現在、歴史資料館と申しますか、例えば、市街地ですので、郡上八幡に限って申しますと、近くに、例えば、郡上八幡博覧館でございましたり、こちらで歴史とか水、それから、いわゆる工芸、技といったようなものもやるところがございまして、それから、町なかの方が御自分の作品を展示をするといったようなことで、旧庁舎記念館の隣に楽藝館でありましたり、あるいは、旧庁舎記念館の2階のところも、展示スペースというものはございませぬが、そういったようなことでそうやって見ていただけるようなところはあるのではないかと。ただし、きちんと収蔵ができて、そして、もともと調査・研究をするというのも大きな役目でございますので、この中で調査・研究をして、例えば、直筆の歴代の例えばお殿様の何かが古文書の中から、お預かりしたあるいは寄託を受けた物から出てきたとかというような、もしそういうような発見がありましたら、そうしましたときに、こちら

の今の展示スペースといったようなところで市民の方に、あるいは外の方でも結構ですが、そういったような方に見ていただきたいというような展示コーナーということで、入館料を取って見ていただくというような規模のものではないということでございます。

こちらのほうは、それで、資料、歴史的な史料、「歴史」の「史」の史料と両方ございますが、こういったものも、物だけではなくて、例えば、中に書いてあることが非常に歴史的な大切な物といったような物は、例えば映像で保管したりとか、いわゆる電子データで保管して、実物は傷んでしまっただけですけども、そういったものですぐに市民の皆様、あるいは、歴史の愛好家の皆様がこういう資料がないかというふうに言われましたときに、すぐにその資料は見ていただけるというような機能の建物ということで、御理解をいただきたいと思います。

それから、3点目が……。

(「今の2点です」と3番議員の声あり)

○教育次長(細川竜弥君) 2点でよろしかったですか。

以上でございます。

○議長(渡辺友三君) そのほか。

14番 武藤忠樹君。

○14番(武藤忠樹君) 今まで皆さん質問されてた中で、まだ答えをもらってないことが幾つもある。今の原議員、3番議員のあれでも、駐車料金をどうするかっていうことがなかったですし、先ほど10番議員の防犯カメラの話もまだ御回答されてませんが、いろいろお話し聞く中で、歴史資料文化財収蔵施設と駐車場をつくるっていう、何か相反する目的を2つ一緒にされているっていうことで、何かコンセプトが見えてこないんですけども、片方はしっかり守っていかなきゃならないもので、片方は観光で駐車場に使うっていうことですけども、先ほど10番議員の質問の中で、トイレは24時間使えますっていうことですが、非常に防犯的に怖いっていう思いはしてるんです。こんな大事な文化財を守っていくのに、そんなものと一緒につけていいのかなっていうのは私の心配ですが、その辺のところをちょっとどんな管理をされるのかお聞きしたいのと、それから、今、3番議員の中で言った駐車料金のことですけども、愛宕駐車場なんかは、土日だけ有料になって、平日は無料っていう形ですけども、この施設ができたときに、どんだけ開館されてっていうこともわかりませんので、どんな運営をされるのか、その辺のところがちょっと御説明いただきたいと思います。

○議長(渡辺友三君) 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長(細川竜弥君) 失礼をいたしました。駐車料金ということなんですけども、実は、今、武藤議員御指摘のように、この建物そのものは、いわゆる歴史収蔵庫ということであれでございますが、この駐車場の大部分のところは、いわゆる観光駐車場でございますたり、もちろん観光客以

外の方もとめられますので、2つの機能を持っておりまして、ここのところでは調整をいたしまして、例えば、有料にするか無料にするか、それから、例えば、有料でありましたようなときに、その料金の徴収のほうをどういうふうにするか。例えば、管理人がおりまして徴収をするということもありますし、今、文化センターで土日なんかの有料のときには、自動のゲートのものでございますが、こういったものを備えつけるとか、そういったところは、今これから、30年の3月のほうの運用開始に向けて、関係部のほうで調整をしていきたいというふうになってございます。

それから、防犯カメラのことでございますが、こちらもちよっとお答えを忘れておりまして申しわけございませんでした。防犯カメラそのものは設置してございませんが、こちらのほうのセキュリティにつきましては、この庁舎とか、文化センターもそうでございますが、いわゆる民間の警備会社のほうに、例えば、侵入者があった場合、それから、何かもちろん火災とかそういったような場合には、そちらのほうにまず通報が行きまして、そして、すぐに対応ができるようにというそういう防犯システムのほうを考えております。防犯カメラまではまだちよっと至っておりませんが、それは、今後、この運用開始直前のところで警備委託をします。その際に検討をしていくことになるかというふうに思います。

それから、外部トイレの件でございますが、御心配のとおり、実は、一番最初、先ほど申しました1階のところは内部にありまして、全くの内部のトイレでございました。それをやっぱり駐車場を利用される方のトイレも必要だろうということで外へ出して、そのときに、一旦、内部の物は別の扉でこの、外へ一旦出なくても使えるようにしようかというような案もございましたが、今、武藤議員おっしゃるとおり、それですと扉が必ず壊されますと中に侵入をしてしまうといったことで、これは、外壁にはなっておりませんが、基本的には、もう建物の外の壁と同じで、それより中へは、例えば、どっかの扉を壊して入るとかそういうことができないというような設計にしております。

○議長（渡辺友三君） 14番 武藤忠樹君。

○14番（武藤忠樹君） 24時間トイレが使えるっていう必要性があるのかってことですね。駐車場の問題ですけど。今は、大正町公園とかいろんなところに駐車場ありますけども、八幡駅でもそうでしたが、非常に人のたまり場になる可能性もありますし、非常に、防犯上、24時間トイレが使える、これだけの広場ができるっていうことは、非常に怖いなど、こんだけの資料を集めて、文化財を集めてるとこで怖いなって気がせんでもないんですが、その辺のとこの防犯対策をしっかりやっていただくことが今後の課題になってくると思いますが、駐車場として利用するっていうことの何かそれとトイレっていうのは、どうも結びつかんのですけども、その辺のとこの運用面しっかり考えてやっていただけたらと思っております。

○議長（渡辺友三君） そのほか。よろしいですか。

5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） 先ほど消防のこともお聞きしましたが、またそれがそれ以上入っても消防法上いいのか、ちょっともう1回お答えいただきたいってことと、あと、このエレベーターの件ですけれども、地下へ埋蔵の物を持っていったりするためにも、多分、重たい物とか、石ではないけれども、例えば陶器とか、大きい物があつた場合に、これ、ただ身障者のものというよりも、そうした物も運び入れたり、トラックヤードから来た物を入れなければならないと思うんですが、どうもこのエレベーターを見ると、幅が3尺も扉がないような、80センチからそこらかな、ちょっと狭いんじゃないかなと。そうしたある程度の大きな物の収蔵をしたり、また重量がある物の場合、このエレベーターで対応できるのかどうかということについてもお伺いしたい。

○議長（渡辺友三君） 消防長 川島和美君。

○消防長（川島和美君） 消防法上、収容人員を超えて収容できるのかという御質問です。通常、こういった防火対象物ですけれども、収容人員を消防法の規定に基づいて算定をします。算定の仕方は、例えば、ある面積があつて、それを1人収容するためにどれだけの面積が必要かということで、面積割りで出す場合もありますし、または、座席ですね、座席とか椅子とか、そういったものがある場合はその椅子の数とかということで、おおむね今の2点で収容人員を算定します。その収容人員が、例えば10名しか入れない部屋があるとします。ここに例えば20人入つてはいけないのかということですが、この部分は、消防法上は規定はありません。入つても特に違法になるということではありません。

ただ、10名入れる部屋に、例えば100人入つたときにどうなんやということなんですけど、これはやはり防火安全上、万が一に火災が発生したときに、その100人が屋外に逃げれるとか、安全な場所に逃げれるとか、避難できるかどうかということを考えてときには、当然、これは100人はだめですので、基本的には、その収容人員以内ということではないですけど、その前後という考え方で対応していただければ結構です。

以上です。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） エレベーターの件でございますが、こちらのほうは、一応、能力としましては15人ということで、現在、文化センターのものよりもたくさん乗れると申しますか、重さ的にですね。これはやはり、今、山川議員おっしゃいましたとおり、人をと申しますよりは、むしろ物の中には非常に重量物がございまして、そういった物を運ぶ際にやはり運ばなくてはちょっとその意味をなしませんので、ということで、やや能力としては高目の物のエレベーターということにしてございます。

ただし、余り長尺の物であつたりとか、このエレベーターの寸法に入り切らないという物は、ま

たこれはちょっと別の勘考をしまして運び入れるといったようなことが必要になるということは想定されます。

○議長（渡辺友三君） 5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） まず、エレベーターの件ですけれども、そういうことを考えますと、例えば、1階に収めればいいものかもしれませんけれども、2階にフォークリフト等とかで外から上げて入れるとかですね、そうした扉とかそういうものを勘考することは必要じゃなかったかということもちょっと思ったりもしますし、ちょっとその辺とですね、今、消防長が答えられましたことなんです、例えば、1つの催し物が文化ホールであると、どんなホールでもですけれども、結局、本当にたくさん応募があって、立ち見は許されない場合がよくあります。それをよく聞きますと、消防法上で、立ち見とか、通路に座ってしまいますと、いざ火災、いざ地震というときに、逃げる避難のための誘導と脱出までの時間がかかるといったようなことがございまして、今、答弁であったとおりだと思いますが、ここに書いてあります想定が、閲覧室とか展示室、この95平米のところ、先ほど3番議員からも言われましたように、何か珍しい物が入って、観光客じゃないそうした専門家の方々にもぜひ見てもらいたいといったようなことがあった場合に、やはりこれ、10名以上の方がもちろん来たり、そして、何かの展示をちょっと特別にしたりするときには、たった10名ずつの入れかえかいというようなことも起きると思うんですね。ですから、これ、10名を想定、あとパソコンの席を入れると2席あるので12名なんです、本当にこのあたりをちょっとはっきりさせといて、その機能のことを考えておいていただきたいと思います。

そして、もう一つつけ加えて、ちょっと今、ちょっと思い出したように質問するわけですが、いずれこういうところに、まず、あまた数々のこの郡上市、また、郡上市外からもそういうことあるかもしれませんけれども、郡上にちなんだそうした書物等が搬入されて、これは昔の物でどういう物かなといったようなことがある場合、実際、そうした古文書的な物に関して、どれだけのここにおける配置された人、もしくは市の職員、あとは嘱託職員、またはそのときに頼まれる方で、郡上市内にどれだけの解析能力のある方がおられて、どの程度の方が、そういう方を準備され、準備と申しますか、用意をされているか、もしくは今後そういう方をどのようにお願いしていくかということがなければ、ここへ持ち込まれたところで「これ何じゃ」と、郡上にはそういう全く力がなくて、かなり古い物、どこまでかわかりませんが、外部の方々に来ていただいて分析していただかなくてはならないこともあるかもしれませんが、そのあたりの程度をどのように考えておられるのかお聞きしたいと思います。

○議長（渡辺友三君） 教育次長 細川竜弥君。

○教育次長（細川竜弥君） まず、1点目の例えばそういう重量物を2階へ運び上げるときに、フォークリフトのようなもので2階のところにそういうものをつくってはといったようなこととござ

いますが、実は、こちらの収蔵庫のほうに、収蔵棟のほうにつきましては、できるだけ外部との出入り口をつくらないと。と申しますのは、こちらの収蔵庫の棟の扉につきましては、普通の扉と申しますよりは、どちらかという和金庫に近い形の扉で、気密性とそういうものを確保しております。したがって、外部のほうへ例えば直接通じるということになりますと、そうすると、やはりまたその気密性を確保するために、非常にちょっと難しいと申しますか、またそのための広さが要るといったようなことで、今申し上げましたとおり、今もし入らない物が来たらどうするかといったような問題は当然ございますけれども、外部から2階へ直接といったようなことは想定をしていないということでございます。

それから、運用後のいわゆる御心配ということになります。現在も、郡上市史編さん委員会編さん室というのを、今、建物がないもんですから、文化センターの3階に設けておまして、1名の正職員が学芸員の資格を持っておりますが、その者と、それから、そういったことに非常に興味があってと申しますか、そういった方に今お手伝いをしておっていただいています。できましたら、そういう方を、大体作業員といたしましては、3名から4名程度になるのではないかなというようなことを思いますが、ただ、その方だけに入ってくる物を全部さばけるかと申しますと、例えば、それが一度にたくさんありましたようなときには、まず、とりあえず収蔵をしておいて、そして、その中から取り出して調査・研究をしていくというようなスタイルになろうかと思えます。よく新聞でも、こういう大発見があったといったような物は、もともとその収蔵庫に入っておりまして、それを調査・研究で取り出して調べましたらそういうことがわかったといったようなことがございますので、多ければ多いほどそれはよろしいかと思えますが、やはり運営上の経費的な制限もございますので、現在では、一応、その正職員を除きましては3名から4名ぐらいのそういう作業員といたことで当たらせていただきたいということでございます。

それから、消防法の件のほうで、私のほうでちょっと直接調べさせていただきましたが、例えば、文化ホール等でございますと、ホールにもう何人というふうな規制がございますと、それを超えてということは違法になるといったことでございますけれども、この施設の場合には、一応、50人という想定でこの広さのもの、例えば、机ですとかそういった数はちょっと足りないかとは思いますが、またそのあたりは備品購入といったようなところですけども、また余りこの中に50人がぎちぎち入る想定をしてしまいますとちょっとできませんので、一応、想定では50人程度と、50人を超えても、この区分がこの建物の場合には、博物館的施設というものに該当するそうございまして、大体、幅が物すごいあるんですけども、50人から500人ぐらいの間と、500人が入るということは当然考えられませんけれども、50人ほどを想定しておるといったことでございます。

○議長（渡辺友三君） 5番 山川直保君。

○5番（山川直保君） そうしましたら、その学芸員の方とかの件ですけれども、学芸員の方プラス

3、4名ということなんですけれども、せっかくこうした画案ができて、期待されて、内外からも期待される中で、郡上市の中でもまた古い物を開いてみたりするときに、やはり本当に学術的にどのような価値があって、それがどのようなことの内容が記されておるかとか、それがある程度できるような体制も整えていただくために、本職として正職員としてそういうことは非常に経費のかかることでしょうけれども、今のその方がレベルが低いというわけではないんです。しかしながら、そうした方々も、そういう嘱託とか来ていただけるような形、そうした人の確保ということに関しても、あわせてお願いをしておきたいなということを思います。

以上です。

○議長（渡辺友三君） そのほか。

（「質疑なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認めます。

お諮りいたします。議案第147号については、議会規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議案第147号については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

討論を行います。討論はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 討論なしと認め、採決を行います。

議案第147号について、原案のとおり可とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議案第147号については、原案のとおり可とすることに決定をいたしました。

◎議発第13号について（議案朗読・提案説明・採決）

○議長（渡辺友三君） 日程40、議発第13号 子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止と子ども医療費の助成制度の創設を求める意見書を議題といたします。

事務局に朗読させます。

議会事務局長 長岡文男君。

○議会事務局長（長岡文男君）

議発第13号

子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止と子ども
医療費の助成制度の創設を求める意見書について

表記について、地方自治法第99条及び、郡上市議会会議規則第14条の規定に基づき、別紙意見書を提出する。

平成28年9月30日提出

提出者 郡上市議会議員 上 田 謙 市

賛成者 郡上市議会議員 清 水 敏 夫

賛成者 郡上市議会議員 兼 山 悌 孝

郡上市議会議長 渡 辺 友 三 様

子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額措置の廃止と子ども医療
費の助成制度の創設を求める意見書（案）

今や少子化対策は緊急の課題となっており、本市においても様々な施策を実施しているところ
あります。その重要な施策の1つが子どもの医療費助成であります。これは子どもの疾病の早期発
見・治療と保護者の子育てにおける経済的負担の軽減を目的とするものであり、今や本市のみなら
ず全国的に実施されている自治体単独の事業となっています。

一方、国はこのような地方自治体の現物支給方式の医療費助成の取り組みに対して、医療費の波
及増分は実施自治体が負担すべきとして、本来国が負担すべき国民健康保険国庫負担金等の減額措
置を講じています。こうした措置は、少子化に伴う人口減少問題に取り組む国や地方自治体の努力
に逆行するものであります。

今や人口問題は喫緊の国家的課題であることに鑑み、下記の事項について強く要望します。

記

1 子どもの医療費に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置を廃止すること

2 国において子ども医療費の助成制度を創設すること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成28年9月30日

岐阜県郡上市議会

提出先

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣

財務大臣
厚生労働大臣
内閣官房長官

以上でございます。

○議長（渡辺友三君） それでは、ここで提案者の説明を求めます。

13番 上田謙市君。

○13番（上田謙市君） ただいま長岡事務局長が朗読をいたしました子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止と子ども医療費の助成制度の創設を求める意見書（案）を提出する理由を申し述べます。

この意見書につきましては、子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止を求める、先ほどの意見書採択に関する請願書を採択したことから、国に対してこの意見書を提出するものであります。

地方が単独で福祉医療の助成事業を実施した場合の国民健康保険の国庫負担金が減額される状況についてであります。郡上市の場合、子ども医療費関係分として、平成27年度では、未就学児、小中学生合わせて237万4,753円であると事務局から聞いております。

そして、岐阜県下の乳幼児医療費助成事業の実施状況を見ますと、県下42市町村その全てで義務教育終了までの無料化を実施しております。

さらに、高校生を初め、18歳までの子どもに対する医療費助成では、郡上市を初め、8つの市町村が入院、外来ともに助成を実施しており、2つの市では入院のみであります。助成を行っております。

そうした状況といいますか、現況を鑑みますと、国に先駆けて実施している乳幼児医療費助成事業は、今やよく日置市長が言われますけれども、自治体における政策・施策の標準装備になっているということが言えると思います。

そうしたことから、子ども医療費の助成制度の創設については、これはただいま言いましたように、請願書では、子どもの医療費助成に係る国民健康保険の国庫負担減額措置の廃止でありましたけれども、子ども医療費の助成制度の創設については、文教民生常任委員会といたしましても、こうしたことを意見書に盛り込むことが適当であろうということで判断したものでありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（渡辺友三君） それでは、質疑を行います。質疑はございますか。

14番 武藤忠樹君。

○14番（武藤忠樹君） 1点お聞きします。

先ほどの請願書のときに質問すればよかったんですが、この請願書の中にあります、終わりがけにあるんですが、「国による全ての子どもたちの医療費助成が制度化されるまでの間」という、その間、これを廃止してくれってということが書いてあるんですね。国庫負担金減額調整措置の廃止を求めることが本当の目的じゃなしに、国による子ども医療費の助成制度を創設することが、先ほどの請願でも、こちらが本当の目的のような気がするんですね。であるならば、僕は、この1と2が必要なくて、2の国において子どもの医療費の助成制度を創設することが一番大切なことであって、医療費減額調整措置を廃止することってというのは、これは、それまでの間、市町がやっていることに対して、国がこの罰則的なことをやらないでくれってというような形であって、これは、僕は郡上市議会として出すべきじゃなしに、本当の目的は、この助成制度を創設してほしい、もちろん創設されれば、当然、こういった調整措置もなくなるわけですから、僕は、もっと大義をもって、国の医療費制度を創設するほう一本で、私はやるべきじゃないかなってという意見を持ってるんですが、その辺のところを文教民生常任委員会の中でどういうふうに話し合いをされたか、それをお聞きしておきたいと思います。

○議長（渡辺友三君） 13番 上田謙市君。

○13番（上田謙市君） 今、武藤議員が言われるのは、必要十分条件のようなことでないかと思えますけれども、例えば、意見書にある「国において子ども医療費の助成制度を創設すること」のみだといえますと、その間、子どもの医療に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置は続くわけでありまして、これは、いつ国が医療費の助成制度を創設するかということは、まだ不透明なことでありますので、その前に、現在の国庫負担減額調整措置をまず廃止してもらいたいというこの二本立てで、私はいいのではないかというふうに思っております。

○議長（渡辺友三君） そのほか。

（「質疑なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 質疑なしと認めます。

お諮りいたします。議発第13号については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 異議なしと認めます。よって、議発第13号については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

討論を行います。討論はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡辺友三君） 討論なしと認め、採決いたします。

議発第13号について、原案のとおり可とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡辺友三君) 異議なしと認めます。よって、議発第13号は、原案のとおり可とすることに決定をいたしました。

◎市長挨拶

○議長(渡辺友三君) 以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。

ここで、日置市長より、御挨拶をいただきます。

市長 日置敏明君。

○市長(日置敏明君) 平成28年第4回郡上市議会定例会の閉会に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

議会におかれましては、去る9月8日の開会以来、本日までの23日間にわたりまして、終始御熱心かつ慎重に御審議をいただきました。提出をいたしました諸議案につきましては、本日、追加提案をさせていただきました議案も含めまして、全て議決を賜りまして、まことにありがとうございました。

審議の過程や、あるいは、一般質問等においていただきましたいろいろな御意見や御提案につきましては、今後の市政運営にそれを踏まえてまいりたいと考えております。

明日10月1日でございますが、いよいよ平成28年度も、あすから後半の下半期に入ることでございます。

平成28年度のさまざまな事業を適正に執行するとともに、平成29年度へ向けてのさまざまな準備も進めてまいりたいというふうに思っております。

これから本格的に秋になりまして、各地域でのふるさと祭りや、あるいは、議会のほうでも、議会活動として、市民の皆さんの意見をお聞きになるようなそういう計画があるようでございます。

大変忙しい時期に差しかかってまいりますと思いますが、議員の皆様方におかれましては、どうぞ御健康に留意をされまして、一層の御活躍をいただきますようお願いを申し上げます、御挨拶といたします。ありがとうございます。

○議長(渡辺友三君) ありがとうございます。

◎議長挨拶

○議長(渡辺友三君) 平成28年第4回郡上市議会定例会の閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

今定例会は、去る9月8日から本日9月30日までの23日間にわたり、23会計の決算認定、また、補正予算など、市政の諸案件につきまして、極めて慎重に御審議いただきました。全議案、滞りな

く議了することができました。議員各位の御協力に深く感謝を申し上げる次第でございます。

また、大坪、兼山、両監査委員には、決算審査から決算認定となる本定例会まで、長期にわたりまして、まことに御苦労さまでございました。心より御礼申し上げます。

市長を初め、執行機関の各位におかれましても、常に真摯な態度をもって審議に御協力いただき、厚く御礼を申し上げます。

今定例会を通じ、議員各位から一般質問や審議の過程で述べられました意見・要望につきましては、今後の市政の執行に十分反映されますよう要望する次第でございます。

議員各位並びに執行機関各位におかれましては、健康に御留意いただきまして、ますますの御活躍を御祈念申し上げまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

◎閉会の宣告

○議長（渡辺友三君） 以上で、本日の会議を閉じます。

これをもちまして平成28年第4回郡上市議会定例会を閉会いたします。

どうも御苦労さまでございました。

(午後 3時16分)

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

郡上市議会議長 渡 辺 友 三

郡上市議会議員 清 水 正 照

郡上市議会議員 上 田 謙 市